

# 平成27年度法人事業報告

社会福祉法人 札幌この実会

平成27年度は、南ブロックに「もいわサポートセンター」を開設しました。就労支援（B型・移行）、短期入所、及び児童発達支援・放課後等デイサービスの事業を通して、子ども達のすこやかな成長をめざし、また、大人の人達の就労支援に取り組みました。西ブロックでは、二つのグループホームの事業所を統合し、地域の暮らしの充実を目指しました。また、南ブロックの法人分割・独立の準備を進め、28年度に社会福祉法人藻岩この実会が誕生する運びとなりました。これまでの取り組みの見直しとともに新たな挑戦を始める年度となりました。

## 1. 法人分割・独立について

札幌この実会では、組織の肥大化による弊害を避け、一人ひとりの顔が見える規模で、地域に根差してそれぞれの課題に取り組むため、平成21年に社会福祉法人あむ、23年に社会福祉法人NIKORIが独立しましたが、さらに28年の南ブロックの独立に向け準備を進めました。新法人の理念や組織体制、事業展開等を整えながら札幌市と協議を進め、設立準備委員会立ち上げ後には財産の贈与契約を締結し、28年7月の法人認可、10月の独立（事業開始）の見込みを得ることができました。

## 2. 事業所指定について

平成27年度は、「もいわサポートセンター」開設にともなう新規指定を受けるとともに、既存事業を次のとおり変更しました。

(4月)

もいわサポートセンター新規指定

- 就労継続支援B型事業 もいわサポートセンター(定員20名)
- 短期入所事業 もいわサポートセンター(定員4名)
- 児童発達支援事業 児童デイサービスPorte(定員5名)
- 放課後等デイサービス事業 児童デイサービスPorte(定員5名)

この実らいふネットとぼぼんを統合(3月末でぼぼん廃止)

この実らいふネット、10住居を13住居に、定員48名を68名に変更

お達者倶楽部、3住居を2住居に、定員15名を13名に変更

- その他、管理者、サービス管理責任者、及び運営規程を変更  
(7月)  
この実サポートステーションすてっぷ、この実わーくネット、及びこの実らいふネットの  
協力医療機関を変更  
(8月)  
この実らいふネットのサービス管理責任者を変更  
(10月)  
ほっと相談センターの管理者を変更  
(11月)  
この実らいふネットのサービス管理責任者を変更  
北の沢デイセンター「ちゃれんじ」をもいわサポートセンター(就労移行支援)に変更  
(12月)  
もいわサポートセンター就労継続B型の作業所のお菓子工場NOIX工場を従たる  
事業所として追加

### 3. りらくく大規模修繕(スプリンクラー整備)事業について

平成26年度分のグループホーム及び短期入所事業所に係る札幌市スプリンクラー緊急整備事業として、27年度に短期入所事業所りらくくのスプリンクラー整備を実施しました。

記

補助金:平成26年度札幌市民間社会福祉施設等整備費補助金  
事業名:短期入所事業所りらくく大規模修繕(スプリンクラー整備)事業  
補助対象経費 5,562,000 円 補助金 2,822,000 円 自己資金 2,740,000 円

### 4. 大友福祉振興財団助成AED設置について

北の沢デイセンター及びもいわサポートセンターにおいてAED導入が課題になっていたため、6月に大友福祉振興財団に助成金交付申請をしたところ、9月に下記のとおり助成金交付承認が得られ、2施設とも設置することができました。

記

助成団体:大友福祉振興財団  
北の沢デイセンター

- (1)助成交付金額:162,432 円
  - (2)自己負担金:40,608 円
  - (3)助成項目:AED(自動体外式除細動器) 1台
- もいわサポートセンター
- (1)助成交付金額:162,432 円
  - (2)自己負担金:40,608 円
  - (3)助成項目:AED(自動体外式除細動器) 1台

## 5. 第2この実寮増改修工事について

第2この実寮では高齢化に対応する環境改善が課題となっていたところ、南ブロックの法人分割・独立に向けて札幌市と協議するなかで、新設法人では、平成5年開設の第2この実寮に現在適用されている設備基準の経過措置が適用されないことが判明しました。寮生の皆さんに安心・安全な生活環境を提供するとともに、法人分割・独立に支障をきたさぬよう、現在の指定基準に適合させる増改修工事を行いました。

記

工事費:48,276,000 円 設計監理費:2,268,000 円 合計:50,544,000 円

## 6. 土地(北ノ沢 1904-178 他)の受贈について

もいわの家及び南事務所の敷地に接する私道を受贈しました。この道路は今後の計画に重要な土地であり、所有者の田畑昌夫氏並びに吉田俊子氏に感謝の意を表します。

記

所在 札幌市南区北ノ沢  
地番(地目) 1904番178(公衆用道路)、274(雑種地)、275(雑種地)  
地積 合計1235㎡

## 7. 土地の売却について

下記法人所有の土地について買付申込みがあり、検討の結果、本物件が遊休地で、

今後の利用計画の立案も難しく、売却を検討しても通常買い手が見つからないと思われることから売却しました。

記

(所在)札幌市西区平和(地番)325番17(地目)原野(地積)231m<sup>2</sup>

(所在)札幌市西区平和(地番)325番18(地目)原野(地積)279m<sup>2</sup>

(売買代金)1,000,000 円

## 8. 決算について

平成27年度の収支概要は次の通り。

法人全体の収支(積立金処理を除く)

(単位:円)

	26年度決算	27年度決算	対前年度差額
収入計	800,163,133	895,913,702	95,750,569
支出計	1,040,635,154	943,650,500	▲ 96,984,654
収支差額	▲ 240,472,021	▲ 47,736,798	192,735,223
繰越率	▲ 30.1%	▲ 5.3%	

# 平成 27 年度事業報告の骨子

## この実サポーステーション

### 1. 生活介護事業所「すてっぷ」

#### ○はた・ら〜く

- ・主に北海道ピーエスの下請け作業として、箱折りを行なった。概ね年間を通して作業を行なう事が出来た。
- ・作品作りでは、羊毛でヘアゴムやヘアピンストラップ等の商品を作り、円山動物園・元気ショップ・元気ショップいこ〜るで販売している。
- ・普段机に向かったの室内作業が中心となるため、身体を動かす機会として、ラジオ体操や室内自転車、環境整備、散歩などの活動を提供した。

#### ○盤溪

- ・屋外で身体を動かす活動に向いている寮生の活動の場として、中央区盤溪にある作業場で腐葉土作りや馬の世話、除雪などの環境整備を中心に活動を行なった。
- ・腐葉土については、春と秋に西野、福井地域に新聞広告を入れ販売している。地域への販売を始めて約 10 年になり、地域にも浸透してきており、販売数も毎年微増してきている。

#### ○その他の活動

- ・気分転換や楽しみながら身体を動かす機会として、ゲームや音楽活動を少人数のグループごとに「はたレク」として交流ホームで活動を行なった。
- ・余暇活動として、寮生に希望をとり「カラオケ」や「ボウリング」、「プール」等の活動を提供した。

### 2. 単独型短期入所事業所「りらく」

- ・防災の基準を満たすため、札幌市からの補助を受け 7 月～8 月に工事を行ない、スプリンクラー設備を設置した。
- ・外部の児童を対象にした、長期休みに行う作業体験は、夏期のスプリンクラー設備工事を行っていた為、利用者の安全性を考慮し冬期のみ行なった。参加人数が減少して来ており来年度は、募集の範囲を広げていきたい。

平成 28 年 5 月 20 日

この実支援センター

事業報告書 骨子

○この実支援センター

- ・若く経験年数も浅い職員が多い為、職員育成の為に平成 28 年 1 月より 4 グループに分かれた学習会を始めた。職員も積極的な姿勢がみられた。(現在も継続中である。)

○この実わーくネット

- ・平成 28 年 1 月より、以前よりこの実会が大変お世話になり、障がいの方にとっても理解のある、日本仮設株式会社での工場内の作業を打診し、打ち合わせや見学を重ねながら施設外就労の準備を進めていった。
- ・高齢化になり仕事中心から高齢・成人病等の対策のために軽運動をメインとした「レクレーション」60 歳以上の人たちの休息や楽しみの活動「いきいき日」を週に一度行ってきた。どちらも仕事が生活の中心から楽しみや気分転換として位置づいてきている。その他に全体で月に 1 度、趣味的活動を増やす為に、「くらぶ活動」を行っていく事となった。
- ・西区、手稲区社会福祉協議会を通し、ボランティアの募集を行った。「いきいき日」「レクレーション」「くらぶ活動」等に受け入れ、外部から出入りする事で、本人達の楽しみになり、人との関わりを広げるものとしていきたい。
- ・地域のコミュニティの場カフェ「いこっか!」は、大家さんの意向（自宅の建替え）により平成 27 年 5 月末に閉める事となった。
- ・おまかせ屋は福祉除雪を含め 110 軒（前年度は 95 軒）からの依頼を受けるようになり地域から期待や信頼を得ている。

○この実らいふネット

- ・今年度は支援センターの共同生活援助事業所（この実らいふネット）とサポートステーションの共同生活援助事業所（ぼぼん）を一元化し、住居数 13 ヶ所、定員 68 名の共同生活援助事業所「この実らいふネット」となった。支援センター、サポートステーションの職員全体で見ていく事となり、混乱する事も多く見られたが、その都度打ち合わせを行い対処していった。
- ・平成 28 年 3 月 31 日で建物の老朽化により「はみんぐ」を閉鎖する事となった。

# 平成27年度事業報告の骨子

北の沢デイセンター

## 〈活動の目的〉

1. 知的障がい者の社会参加や自己実現を目指す。
2. 個々のライフステージに合わせた支援を実施する
3. 地域との連携を活発にし、地域福祉の拠点としての役割を果たす。

知的障がい者の社会参加や自己実現に関しては、サービス管理責任者を中心として個別支援計画を作成し、支援計画に沿った日中活動支援や余暇活動支援を行うことができた。

地域福祉の拠点としては、「旧道茶屋」「おまかせ屋」「コミュニティーガーデンみんなの丘」などを中心に地域の方に利用していただけるように支援を心がけた。

「旧道茶屋」については焼き菓子販売を行っていたが、6月から「旧道ベーカリーDefi」とパン製造と販売の店に業態を変更し、営業を行った。「札幌この実会」が運営していることで、以前から購入していただいていたお客様が引き続き来てくださり、順調な売上をあげ、メンバーもパン製造や接客で作業に参加することができている。

「おまかせ屋」の活動では近隣の地域の方から依頼を受け、夏季は庭の除草、冬季は除雪などを行い、地域の方にデイセンターの活動を知ってもらうことができた。

## 1、作業班の再編と新規作業への取り組み

5月より新規で「ハンガー」作業がスタートしている。エンパイアークリーニングから回収されたハンガーを「シール剥がし」「洗浄」「拭きあげ」「箱詰め」して納品する作業工程で、メンバーの能力に合わせ段階的に作業を提供することができた。

「旧道茶屋」では6月より「旧道ベーカリーDefi」として、パンの製造、販売をスタートさせた。メンバーも生地製造工程や洗い物、接客業務等職員の支援のもと、やりがいを持って作業に参加することができている。地域のイベントなどにも積極的に出店し順調に売り上げを伸ばすことができた。また、11月よりDefiはもいわサポートセンター管轄の就労移行支援事業所として新しいスタートをしている。

## 2、南ブロックグループホームの再編成に向けて

安全で安心な暮らしの場を整え、メンバーが快適に暮らせるようにと検討を繰り返しながら運営をおこなった。28年度の地域生活部門スタートを目指し、当直者の明けの時間や、業務の見直しをおこない、南ブロックとしてどのような形のグループホームが良いのか具体的な計画策定を進めた。

## 3、南ブロック事業所間の連携

「北の沢デイセンター」「第2この実寮」「もいわサポートセンター」の3施設間で情報共有や連携を深め、日中の活動や行事等を実施した。また、デイセンターの利用者1名が第2この実寮の利用をスタートさせている。

# 平成27年度 第2この実察 支援報告書

寮生の平均年齢が64歳を超え、寮生一人ひとりの身体機能や精神状態が変化する中で、個別に対応する支援が日々増している。多様化する支援の中で、寮生一人ひとりが安全で安心して暮らしを続けられるよう、27年度は新たな取り組みとして、「グループケア」・「委員会活動」を取り入れた。職員一人ひとりが寮生について考え検討し、実践することで、職員のスキルアップを目指し、支援の質の向上に繋げることを目的に取り組んできた。初めての取り組みで、戸惑うことも多く見られたが、その都度話し合い、修正していきながら、来年度はより質の高い取り組みになるよう進めていきたい。

## 1. 生活・暮らしについて

### ①グループケアの取り組み

- ・個別の担当制からグループケアに支援方法を変更することにより、支援の質を高めることを目的に取り組みを行なった。

### ②食生活について

- ・個々の咀嚼、嚥下状態に合わせた食形態（常食・刻み・ミキサー食）の見直し介助体制を変更することで、食事の幅が広がっている。

### ③排泄、入浴、移動等について

- ・膀胱機能の低下や、皮膚疾患、歩行状態が不安定になってきているため、介助方法について検討している。

## 2. 日中活動について

### ①活動の内容の検討、実施

- ・身体機能維持を目的としたリハビリ活動や、趣味的活動を充実させるためにグループでの活動を実践している。

### ②行事、余暇活動、外出等の検討、実施

- ・みんなの丘祭りや、クリスマス会といった全体での行事、グループ内でおこなう小グループでの外出、個別の希望による外出と目的に合わせ活動を行なっている。

### ③ボランティア活動の充実

- ・新規に2つのボランティア（音楽療法・カラオケ）が増え、活動の幅が広がった。

## 3. 健康管理と医療について

### ①医療機関との連携

- ・医療機関を整理し、かかりつけ医を中心に通院を行なうことで、受診件数は減少した。

### ②通院、入院について

- ・入院件数（4件） 受診件数（1076件）

### ③感染症予防に対する取り組み

- ・感染予防マニュアルを作成し、全体への周知を促している。

## 4. 建物、設備の改修について

### ①法人分離をすることにより、現行設置基準への対応のため、増改築を行う。

- ・居室、洗面台、介助用トイレ、洗濯室、更衣室、相談室

### ②床貼り替え、エアコン取り付け工事



## 平成 27 年度 もいわサポートセンター事業報告

### 1 就労継続支援B型（定員 20 名）

もいわサポートセンターにおける就労継続支援B型は、開所当時 18 歳から 59 歳までの男女 13 名でスタートし、多くが北の沢デイセンターの生活介護事業からの異動者で構成され、作業内容の構築と安定、工賃の確保を第 1 として「クリーンアップ」「お菓子工房ノワ」「プレイス」の 3 作業班で、職員、メンバーが共に試行錯誤してきた 1 年であった。

10 月からは「ノワ第 2 工場」として「この実クッキー」と新しいお菓子の製造に特化した工場で生産を開始し、1 月に新たなメンバーを迎え、就労支援の充実と売上の向上を常に目指してきた。しかし、その弊害として心の充実を図るための「余暇・趣味的な支援」や社会人としてのマナー支援の弱さも見え、次年度の課題としていくところである。

### 2 児童発達支援、放課後等デイサービス（定員 10 名）

障がいのあるお子さんを支援する事業として 4 月から開所したが、利用実績のない新規事業であり、3 歳から 6 歳の 5 名の利用からスタートした。

札幌この実会の「本人重視」「生活重視」の旗印と同じくして、保護者向けの良い派手な支援にとらわれず、1 人 1 人の個性ある児童に合わせた支援によって、ほぼ発語のない児童の支援、集団での活動を苦手とする児童の支援、ADHD やダウン症のお子さん等様々なお子さんの支援を実施して、やっと発語や笑顔が見られたり、勉強、片付けに集中できるようになったり、幼少期であるが故の早い成長によってこの 1 年間で急激な成長を見せてくれた。

次年度から幼稚園、小学校に上がるお子さんがほとんどであり、通園通学先の教諭とも連携しながら、支援の充実強化を今後も図って行きたい。

### 3 就労移行支援（定員 6 名）

12 月から旧道ベーカリー-defi の事業所を生活介護から就労移行支援にサービス変更し、直 B 問題（高等養護、高等支援学校から直接、就労継続支援 B 型事業に入ること）に対応できるよう、札幌市からの要請もあってスタートしたが、冬休み期間に 3 名のアセスメントを実施して、もいわサポートセンターへの新規利用へと繋げることができた。

しかしながら、本来の就労移行支援事業所としての役割をである「一般企業への就職」を視点とした、実習先の企業開拓、一般就労へ向けた様々な支援については、課題が山積であり、次年度に徐々にではあるが支援を構築し

て行きたい。

#### 4 短期入所事業

スプリンクラー未整備のなかで、消防法による「区分4の割合が8割を超える」という基準をみながらの運営で、更に当直可能な職員の割合が少なく、他法人、相談室等からの問い合わせも多い区分5区分6の方の受け入れがなかなかできなかったが、短期入所事業でも「生活支援」を重点に、食事の準備、配膳、片付け、相談、入浴、身だしなみにも視点を置きながら支援を行ってきた。

次年度からは当事業所のメンバーに、就労支援と併せた「自立訓練」としての位置付けで短期入所を利用してもらうよう、保護者とも話し合いを継続して行きたい。